

---

# 聖戦の果て

千郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

聖戦の果て

### 【Nコード】

N2279V

### 【作者名】

千郎

### 【あらすじ】

20歳となったアーサーは王となるために各地を旅して行く。そこでランスロットを始め後に騎士となる人々など様々な出会いや困難と遭遇する。その後、アーサーはブリテンの王となり仲間達とともにヨーロッパの崩壊を防ぐため国の併合を始めるが……  
アーサー王伝説を現代的にアレンジしリアルな戦争と群像活劇を書きます。そのため、魔法や神秘といったファンタジーな要素は無くなっているので注意してください。

## 序章 出立（前書き）

この小説は群像活劇とありますがアーサー視点が多めとなります。  
この章はアーサーの義兄であるケイの視点で物語が進みます。  
登場人物の詳細は後に記載します。

## 序章 出立

深い森に入った。ケイは手綱を緩め馬の速度を落とすとした。ここに来るのは2度目であり最初はアーサーを連れてきた時だった。アーサーの母であるロレーヌが病で亡くなり、アーサーの教育をロレーヌに任せきりだったアドレア王は、自らの師であるマーリンに17歳から20歳までの三年間、この森の中に預けたのである。

澄んだ色をした小川を越えたところから空気が変わってきた。馬もそれを感じ取ったのか、しきりに首を振っている。突然、馬の足が止まった。

「兄上」

「おう」

木々からアーサーが飛び出してきて思わず声をあげてしまった。上半身裸のアーサーは少し錆びた剣を持っており、その肉体は無駄がなく鋼のようにたくましい。

「三年ぶりでしょうか」

「そうだな、先生にお会いしたいのだが案内してくれるか」

「はい、先生も喜びます」

アーサーはこちらのペースに合わせてながら、跳ねるように森の中を進んで行く。その身のこなしは、かつて自らが師事した時とはあきらかに違っている。

「剣は誰かに教えてもらったのか」

「いえ、兄上に稽古してもらったのが最後です。先生は武術は出来ないで心得を教えてくださいました。毎日、自分で稽古はしていたのですが」

「そうか、なら後で見てやろう」

「ありがとうございます。兄上」

「その、兄上というのはやめてくれないか。私はアドレア王に拾われた従者でしかないのだから」

「しかし、自分にとっては兄同然です」

未だに自分を兄と呼ぶアーサーに呆れつつ、自分の境遇に感謝した。10歳の時ある日唐突に捨てられた。何か理由があったのだろうが、当時10歳の自分にはそれを思考することは出来なかった。しかし、今の時代は力が全てであり貧困により子供を売ったり、捨てることが少なくなかった。そのため自分もそんな感じの理由であろう。ただ幸運だったのは偶然拾われたのがブリテン王国のアドレア王だったということだ。王の役に立つために自らを鍛え、やがて従者となったが、もしかするとそれは王の目論み通りだったのかも知れない。しかし、自分は自らの命を王家に捧げると心に決めている。

「着きました」

深い林を越えると3年前と同じ小屋が見えた。小屋の目の前には広い湖がりそれを見つめている老人がいた。マーリンである。マーリンは顔色を変えずにゆっくり顔をこちらに向けた。

「そろそろ来るころだと思っていましたよ。ケイ殿」

「お久しぶりです先生」

「アーサーを連れていくのかね」

「はい。」

「そうか、さみしくなるのう」

アーサーはどこか所在なさげである。

「もう、行くのかね」

「出立は明日の朝にしようと思います。今夜はお邪魔してもよろしいでしょうか」

「もちろんじゃよ。別れの時間を作ってくれて感謝してるくらいじゃ。それじゃ夕餉の準備をさせないとな」

マーリンは杖をつきながら小屋の中へ入って行った。

「よし、アーサー。剣を構えろ」

「立ち会っていただけのですか」

「さっき言っただろう、本気でこいよ」

「16」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2279v/>

---

聖戦の果て

2011年10月9日12時53分発行